

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 17-028

PDCA	事務事業名	在宅医療・介護連携推進事業	部課等名	福祉部 高齢介護課 高齢者福祉担当	担当	木村	
					内線等	369	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち 節： 第2節 地域福祉の推進 基本施策： 2. 高齢者福祉 単位施策： (1) 地域包括ケアシステムの構築 個別施策： ①地域包括ケアシステムの体制整備					
	根拠法令等						
	対象・目的	加齢に伴い医療と介護の両方必要となる高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らしを人生最後まで続けることができるよう、医療・保健・介護・福祉の各関係機関の連携によって、包括的かつ継続的な在宅医療と介護が一体的に提供できるしくみづくりを目的とする。					
	目的を達成するための手段・活動内容	①在宅医療・介護の課題抽出や支援体制の整備を進めるための在宅医療介護連携部会（年6回）と、多職種間の相互理解や情報共有を進めるために在宅ケア推進地域連絡協議会（年6回）を開催する。 ②市民を対象とした在宅医療・介護の普及啓発を推進するための講演会を開催する。 ③在宅医療・介護サポートセンターは、市民や医療・介護の関係者等からの相談対応や在宅医療・介護の調整やICT連携システム「だし丸くんネット」の事務局を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①在宅医療・介護連携部会の開催回数	6	5	5	回	
		①在宅ケア推進地域連絡協議会の開催回数	6	9	3	回	
		③在宅医療普及啓発市民講演会	1	3	0	回	
		事業費	846	378	209	千円	
		人件費	7,495	6,210	6,172	千円	
		総事業費	8,341	6,588	6,381	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①会議1回あたりの事業費	23.5	17.9	24.1	千円		
	②講演会1回あたりの事業費	101.1	39.7	0.0	千円		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①在宅ケア推進地域連絡協議会の参加人数	実績値	339	436	158	人
目標値			450	600	300		
②在宅医療普及啓発講演会の参加数		実績値	168	121	0	人	
		目標値	500	500	500		
③在宅医療・介護サポートセンターの相談対応数		実績値	50	30	42	件	
	目標値	60	60	40			
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	C					
		・在宅ケア推進地域連絡協議会は医療・介護の多職種を対象に、事業所で感染が発生した事例の報告、事業継続計画（BCP）や最新の医療情報の提供など、感染拡大予防に関する研修を実施し、各事業所が抱える課題の解決を図った。 ・在宅医療と介護が円滑に情報連携できるよう、ICTシステム（だし丸くんネット）の更新を行った。 ・サポートセンターのポスターやちらしの改訂や市内の診療所訪問など関係機関へのPRを実施した。また、コロナ禍で在宅療養の希望者が増えており、相談対応数は前年度より増加した。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		・動画配信など、コロナ禍でも医療・介護の専門職がオンタイムな情報を安全に共有できる情報提供を工夫する。 ・在宅医療介護連携システム（だし丸くんネット）の利用拡大を図る。 ・在宅診療医や訪問看護など関係機関と連携しながら、ご本人や家族の希望に沿う在宅療養や在宅看取りを調整する。					
	令和3年度の目標	成果指標	目標値		単位		
		①在宅ケア及び在宅医療の研修参加人数	300		人		
	②在宅・介護医療普及啓発市民講演会の参加数	200		人			
	③在宅医療・介護サポートセンターの対応実数	50		人			